

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	居酒屋（経営者）	来客数の動き	・九州新幹線が全線再開し、当県独自の観光応援割など支援の影響もあり、9月の大型連休を境に大きく伸びている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前までは厳しい商況が続いていたが、猛暑でありながらもバーゲンセールが好調だった。また、秋物商材も販売量が前年より増えている状況である。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・気候が穏やかになり客は外出が楽になったようだが、商圈内にはスーパーマーケットが多く、商店街に足が向いていない。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・暑さが和らぎ、秋物への関心が見受けられる。9月の大型連休の来客数も多く、全体的ににぎわいがあった。
	○	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・衣料品全般の売上は苦戦を強いられているが、その他の部門においては、プレミアム付商品券の効果もあり、好調に推移している。特に化粧品や時計、宝飾関連及び食品催事が好調である。
	○	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・消費拡大の地域振興策であったり、自治体による消費購買意欲を高める対策の効果が出ている。
	○	百貨店（経営企画担当）	それ以外	・6月は前年比98.4%であったが、7月100.1%、8月105.3%、9月24日時点で107.5%と、月を追うごとに改善が進み、足元では売上の持ち直しがみられた。富裕層による高額品の購入に加え、韓国、台湾を中心としたインバウンド需要が堅調で、全体の売上を下支えする要因となっている。
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・一般食品は値上げの影響により販売量が伸びない状況が続いているが、生鮮食品は相場が安定しており、特に農産品において販売量が伸長している。この流れが継続しており、消費自体は回復基調にある。
	○	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・決算セールや他社の大型イベントもあり、買い回りの客の来店が多かった。9月の大型連休でも多くの来客数があり、注文も上向いた。
	○	住関連専門店（店長）	販売量の動き	・当社モバイルクーポンの影響により、高価格帯の家具の動きが良い。
	○	住関連専門店（従業員）	単価の動き	・地域のプレミアム付商品券のお陰で、高額商品の売上が好調である。加えて、昼間の気温も順当に下がってきたため、秋冬商材を買い求めに来店する客が増えている。
	○	その他専門店 〔コーヒー豆〕 （経営者）	来客数の動き	・来客数が新規客を含めて増加傾向にある。それに伴い客単価が上昇し、販売量も増えており、景気は良くなっている状況である。
	○	その他小売の動向を把握できる者 〔ショッピングセンター〕 （支配人）	お客様の様子	・3か月前は前年同期に続いた公開作品の強い反動により苦しんでいたが、その時期と比べると今は回復基調にある。また、当エリアにおいては、気温が例年より低く、これまで苦戦してきたアパレル店舗の秋物新作が順当に稼働し始めている。9月の大型連休の来客数は前年と比べると本年の方が良いため期待をしている。
	○	スナック（経営者）	来客数の動き	・9月の大型連休の来客数が前年より多い。
	○	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・暑さが落ち着き旅行シーズンに入っているため、来客数の動きが良くなる。
	○	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・秋の連休のバスツアーが好調である。
	○	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・観光産業においては九州ふっこう応援割の影響により、予約状況も良くなっている。
	○	タクシー（統括者）	単価の動き	・7月の運賃改定により客単価が上昇している。改定に対する大きなトラブルも見受けられない。
	○	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・6月、8月は猛暑と雨の影響により、入場者や売上共に落ち込みが大きかったものの、9月以降は国内や韓国の予約が順調に推移している。

○	住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・政策金利の利上げに伴う客の動きに変化が出ている反面、 資材価格の高騰や金利負担等で予算調整を検討する客が増加 している。
□	商店街（代表 者）	来客数の動き	・3か月前から来客数や販売量共に悪い状態が続いている。
□	商店街（代表 者）	来客数の動き	・前月と比べて長期休日が多く、娯楽に散財して消費が激減 している。
□	商店街（代表 者）	お客様の様子	・来客数が減少し、来店しても購入まで進まず、慎重に選ん でいる。収入が増加している情報もあるが、実際は物価が上 昇しているため買物にはシビアになっている。
□	一般小売店〔青 果〕（店長）	単価の動き	・料理のベースとなる玉ねぎの生産地域が動き、生産量が落 ち着いたため玉ねぎ、じゃがいもの販売がしやすくなってい る。一方、高温障害で当地特産のトマト、キュウリ、ピーマ ンの価格が高いが、サラダ関係が動く時期のため、相互の単 価で相殺されると考えている。
□	一般小売店 〔茶〕（販売・ 事務）	販売量の動き	・来客数は減少しているが、今月は敬老の日の大量注文もあり 前年同月と変わらない売上であった。中東情勢の影響により 生活必需品である茶袋等の仕入価格が高騰し利幅は減少し ている。
□	百貨店（企画担 当）	販売量の動き	・令和8年熊本地震のマイナスの影響を危惧していたが、イン バウンドや国内客の売上の影響は見受けられなかった。国内 客の売上は3か月前の水準とほぼ変わらず、購買商品も高額 商品が中心であることには変わりがない。インバウンドの 売上も地震の影響で減少することはなく、3か月前と同程度 の販売量を維持している。
□	百貨店（営業企 画担当）	来客数の動き	・来客数は増加していないが、気温の低下とともに購買意欲 の高まりがうかがえる。
□	スーパー（店 長）	来客数の動き	・消費者の生活防衛意識が高いまま維持されており、平日の 来客数の減少と特売日へ集中する動きが顕著に表れている。 毎月のように続く値上げに対し、顧客がよりシビアに買物の タイミングや場所を選別している。
□	スーパー（総務 担当）	来客数の動き	・各種食品の値上げが続いており、それに伴い消費者の財布 のひもはますます固くなってきている。特売商品や特売企画 やハレの日以外は来客数、購買点数等で前年を下回る水準が 続いている。
□	スーパー（従業 員）	お客様の様子	・売上は順調に数値が伸びているが、客の購買動向や自身の 身の回りは、景気に関しては変わらない。
□	コンビニ（経営 者）	販売量の動き	・複数購入は減少しており、買上点数は前年比98%である。
□	コンビニ（経営 者）	来客数の動き	・物価高の影響により、来客数が減っている。
□	コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・例年と比べて天候も良く秋らしい気候になり、客の購買行 動の後押しになっている。
□	コンビニ（店 長）	販売量の動き	・大きな経済、政治などの変動が見受けられない。
□	コンビニ（エリ ア担当・店長）	販売量の動き	・店舗が事業所立地なので、連休が続くと来客数が減少し、 売上も伸び悩んでいる。
□	衣料品専門店	来客数の動き	・衣料品販売では、前年よりも若干気温の低下が早かったこ とが早期購買につながっている。
□	衣料品専門店 （店長）	お客様の様子	・客の動きをみると景気には変わりはない。
□	衣料品専門店 （取締役）	お客様の様子	・猛暑が過ぎて突然秋になり、シーズン物である新作を求め に来店する客が多くなる時期である。しかし、値上げで慎重 な購買になっているため、買い回りは少ない。
□	家電量販店（店 長）	来客数の動き	・エアコンの新たな省エネ基準導入の影響等、今年度の特需 となる要素はあるが、来客数は前年の80%台で回復してい ない。
□	家電量販店（店 員）	来客数の動き	・来客数の回復もままならない状況である。

□	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・前年はプレミアム付商品券の効果が多かったが、今月は前年のような効果はないものの、都市部でのキャンペーンは前年を上回っているため、全体的に横ばいの販売量である。
□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕 (統括者)	販売量の動き	・6月時点から好転する材料が見当たらない。値上げによる売上増加はあるが販売量や来客数は好転していない。
□	旅行代理店(統括者)	来客数の動き	・前月に引き続き来客数が鈍化している。ショッピングセンター内の店舗への来客数が前年を下回っていて、特にファミリー層の動きが鈍化しているため、景気への影響がある。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・雨や暑さで昼の利用が多かった。
□	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・足元の売上はやや鈍化しているものの、検討中の見込み客との商談や新たな引き合いは続いている。自治体向けの公募案件も一定数あり、顧客の需要に大きな変化はないことから、3か月前と比べても景況は大きく変わっていない。
□	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・大変な状況であるとはみられるが、そこまでの切迫感は伝わってこない。
□	通信会社(役員)	お客様の様子	・新規加入の案内やオプションサービスの追加に対して反応が悪い。
□	美容室(店長)	単価の動き	・客の様子、来客数は良いときもあれば悪いときもあり、どちらともいえない。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕(管理担当)	それ以外	・8月の猛暑による来客数の減少から9月は回復していない。さらに、6月からの介護報酬改定により社員の賃上げは実施できているが、他業界並みの賃上げには至っておらず、9月も社員数は減少傾向となっている。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・9月前半は、猛暑続きで客足が鈍かった。連休後に何とか徐々に客足が戻ってきているが、売上は余り伸びなかった。
▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・物価上昇の中で、特に食料品の値上げが食料品以外の商品の購買を抑制している。客は必要最小限の買物を済ませて、家路に就く午後からは商店街の人影もまばらになっている。
▲	一般小売店〔精肉〕(店員)	単価の動き	・小売、卸売共に客単価が落ちている。
▲	一般小売店〔生花〕(経営者)	お客様の様子	・当店はギフトがメインの花屋で、令和8年熊本地震の影響により様々な催物が縮小や中止になり、花の需要がなくなっている。
▲	百貨店(業務担当)	お客様の様子	・令和8年熊本地震から2か月たつが、周りの交通手段が復旧せず、被災地では多数の人が日常を取り戻せていないため、県内の生活者に無言の自粛ムードがある。不要不急の買物をする気にならないという声がある。
▲	スーパー(店長)	販売量の動き	・単価の上昇が続くなか、可処分所得が上がらないため、消費者の生活防衛意識は高い。1人当たりの買上点数が前年を下回っている状況が続いている。
▲	スーパー(店員)	販売量の動き	・物価は上がっているが、年金や給与は上がらない。
▲	スーパー(経理担当)	来客数の動き	・客単価は前年比101.3%と上がっているが、来客数が前年比98.5%、買上点数が前年比98.0%と価格上昇の影響が出ている。
▲	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・売上自体は前年並みを保っているものの、徐々に買上点数が減ってきている。商品の値上げにより、前年売上にどうにかたどり着いている状態である。
▲	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・商品の継続した値上げで、客はある程度慣れてきているが、販売側としては良くない傾向だと懸念している。
▲	衣料品専門店(店員)	来客数の動き	・最近目に見えて来客数が減少している。客層が2極化し、ターゲットのボリュームゾーンである中間層で苦戦している。

	▲	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・稼働率を上げるためには最安値を提供することで集客を図るが、今は平日が弱く、料金調整が多くある。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・物価高の影響により飲食の機会が減っているため、タクシーの利用客も減少し景気は悪くなっている。
	▲	通信会社（営業担当）	それ以外	・物価上昇に給与が追いついていない。
	▲	観光名所（職員）	単価の動き	・あらゆるものが値上げになり、良い方向に流れているとは考えられない。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・物価高により、客の動きが悪いため困っている。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	販売量の動き	・物価高騰や観光客の減少などが要因で、地域の景気は上向いていない。
	▲	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築資材や製品の価格が高値で安定している割には、特に地方の中小企業や個人事業主の仕事の対価が上がってこない。また、生活必需品の値上げが続いており、支出は膨らんでいるが収入は増えていない。
	▲	設計事務所（代表）	来客数の動き	・物価高や金利上昇により、物件の単価が上がっている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・周囲の景気は良いところと悪いところが両極になっている。投資関係は良いが、現場関係では人件費、資材が高騰していて利益が上げられない状況である。
	×	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・パソコンの価格高騰が続き、売上が減少傾向にある。
	×	観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・令和8年熊本地震の発生後に宴会のキャンセルがあり、いまだ先行きが不透明である。
企業動向関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2～3か月前よりも材料の仕入状況が良くなっている。恐らくナフサの輸入量が、若干増えているとみられる。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・引き続き半導体関連からの引き合いが強いが、投資、人員、スペースが要件となっており、金利上昇の傾向もあるためタイミングが悩ましい状況である。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月はかなり厳しいと考えていたが、終盤の売上で計画は達成できた。しかし、今はかなり苦戦している。残暑、台風、雨などの影響により、居酒屋業態や量販店など含めてかなり厳しく、少しずつ節約志向が出てきているため心配している。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先のオーダーは多少増えているものの単価が厳しい。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き主要取引先からの受注は旺盛である。
	□	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・ここ最近までは生産量が増えていたが、今は原料調達の状況により横ばいになっている。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・瞬間的な受注量の増加はあるが、継続していないため変動が激しい。業務を行うに当たっても非常にやりにくい状況である。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・景気が悪いと判断するほどでもないが、9月の大型連休前の出荷量が期待していたものではなく、例年と比べて物量が少し減っていることが気になる。
	□	金融業（経営者）	それ以外	・会員数が徐々に横ばいとなっている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・金利の上昇により、支払利息の負担が増加傾向にあり、企業は収益の維持に苦慮している。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・当県独自の観光需要向上対策の効果により、9月の大型連休期間中の県内主要観光地には多くの来訪があった。しかし、物価は高止まりし家計の負担感変わらず、天候不順の日が多いため野菜価格がやや上昇している。
	□	金融業（営業）	取引先の様子	・9月の大型連休は天候不順で活気がなかった。天候、時事ニュースなどを含めて停滞感がある。

	□	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・自社の受注状況に変化がなく、企業の人材投資に対するスタンスに変化がない。
	▲	繊維工業（営業担当）	それ以外	・物価高や賃金上昇で街の工場は対応できずにいる状態で、今年は知り合いが何件も閉鎖した。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・9月は半期決算のため例年であれば荷動きが活発になるが、今年は例月並みで半期決算の影響がほとんどない。数年前から中小企業も含めた賃上げ傾向により収入は増加していたが、賃金の増加以上の物価高と賃上げ疲れもあり、収入が追いつかず物の荷動きが悪い。特に、マンション等は人件費や中東情勢によるコスト上昇に加え、販売価格の改定で売れ残りもあり、マンション建設が中止になると資材関係の荷動きが悪くなる。食料品の値上げも続いているため輸入量が減少している。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の中小企業は、資材、人件費等の高騰や借入金の利上げに伴う経費負担が増加し、資金面での不安感から保証協会の制度融資である中東情勢対応緊急つなぎ融資の利用が増えている。
	▲	不動産業（経営者）	取引先の様子	・取引先の話を聞いて、異業種も同業者も景気は悪くなっているとみている。
	▲	広告代理店（役員）	それ以外	・金利の上昇が買い控えを誘発している。
	▲	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・1人当たりの購入額が減少しており、在庫の回転が滞っている。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村から、街づくりや福祉に関する住民向けのアンケート調査や計画策定の委託業務を請け負っているが、9月の補正予算に基づく委託業務の発注が例年と比較して少ない。指名競争入札では、低価格で応札する業者があり、それを下回る価格では利益が出ないため、受注ができない状況にある。この時期は当初予算に上がっていた業務の発注がほぼ終わっているため、極端に低い価格で入札する業者は少なくなるが、今年は年度初めから今まで厳しい価格競争が続いている。
	×	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・令和8年熊本地震の影響で、お盆の帰省客の売上が前年を下回っている。9月の大型連休で取り戻せるかと期待したが、期待外れであった。地震からの復興は、経済面においても時間も要し、容易ではないため今後は懸念される。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人数は微増しているものの、物価高騰や人件費増加の影響の声を聞く。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業側は採用や人員補充に慎重な姿勢がみられ、採用意欲に大きな変化はみられない。特に退職補充以外の長期案件については動きが鈍く、短期やスポット案件が中心となっている。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・景況感としては、業界によって受注に偏りがあり、介護やサービス業界の問合せは相変わらず多いが、求職者が求める事務職などは少ないため、稼働スタートに至らず横ばいである。
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	それ以外	・景気の停滞感に慣れてしまっている状態である。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・AIが更に進化し、企業での導入による省人化の動きが見られる。一方、人手不足の業種では、ホテル清掃など依然採用需要が根強く、求人市場は業種によるが堅調に推移している。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は4～8月までの5か月連続で前年同月を上回っており、9月も前年同月と同水準で推移している。令和8年熊本地震の影響については、企業の採用意欲に大きな変動は生じていない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・全体として人手不足は依然として強い。

	□	学校〔大学〕 （就職支援業務）	求人数の動き	・企業の人手不足感は依然として強く、9月以降も採用活動を継続する企業が多い。2027卒採用に関する相談も引き続き寄せられており、採用充足に苦戦する企業が見受けられる。また、2027卒から新たに新卒採用を始める企業からの相談もあり、若手の採用に苦慮している様子もある。売手市場の状況に大きな変化はなく、採用活動の長期化傾向が続いている。
	▲	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・例年だと9月は求人数が増加するが、今年は前月よりも約4割、前年よりも約6割減少しており、自社で対応する企業が増えたため、ここ数か月毎月求人数が減少している。しかし、医療関係では、求職者を探し切れず対応できないため、増加傾向になっている。
	▲	学校〔専門学校〕 （就職担当）	周辺企業の様子	・求人は年度初めに比べ減少し、人数から質へ転換している。
	×	—	—	—